

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 1月27日

【評価実施概要】

事業所番号	4270202494		
法人名	有限会社 グループホーム カナリアの家		
事業所名	グループホーム カナリアの家 ファミリア		
所在地	〒857-1164 長崎県佐世保市白岳町1398-8 (電 話) 0956-32-8977		
評価機関名	特定非営利活動法人ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 島原市高島2丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成21年1月21日	評価確定日	平成21年2月9日

【情報提供票より】(H20年12月 21日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 17 年 2月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 6 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 6 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	実費・水光熱日320円/日
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 10万円) 無	有りの場合 償却の有無	(有)/ 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4)利用者の概要(12 月 21 日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名
要介護3	3 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 88 歳	最低 81 歳	最高 93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	加瀬クリニック・佐世保中央病院・大串歯科医院・宮原病院
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

佐世保市内の工場や住宅密集地の中に存在している。母体が病院で、当ホーム以外に病院と併設されているグループホームがある。グループホーム同士の交流や職員の勉強会や研修を積極的に取り組まれている。ホーム近くにあった商店が閉店されたこともあり、食材を外部に発注することによって、その時間を入居者との外出や入居者が買い物を楽しむ支援にあてるなど「ゆとりを持った介護」の実践をされているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価においての改善点への取り組みは、地域との交流は自治会加入直前まで進展されている。市との連携もホーム側からの働きかけを持つような意向があり、他の改善項目も改善に努力されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	昨年12月に管理者の交代があったが、前任者との引継ぎはしっかり行われており、今回の自己評価は、職員に項目番号別に担当を決めて書き込まれた内容を管理者がまとめられた。職員全員が自己評価や外部評価の意義を理解されている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	概ね3ヶ月に1回運営推進会議を開催されている。入居者の近況報告と、救命救急の講習会を開催されたことなどを報告されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	家族の面会時や運営推進会議に参加された時に、意見を聞かれているが、運営に関する意見はなかなか伝えられていない。家族会はないが、遠方への花見や動植物園に行く時は家族参加を促す事前連絡で参加できる家族が増え、本人と家族の触れ合いを通して表出した家族の意見や不安を運営への反映につなげようとされている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	自治会への加入直前までの過程で、老人会との繋がりができて合同で敬老会や花見などの行事に取り組まれる段階まで話し合いができています。保育園からの慰問や中学生の職場体験学習にも協力されている。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	【自信と生きがいを持ち家庭的の雰囲気を作り、持てる力を生かしながらかつたに支えあえるような環境で暮らしたい】を理念とし「入居者とどれくらい一緒に過ごせるか」を大切にすることを目指されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回の職員会議の際に理念の復唱をして職員の意識付けとされている。	○	事業所独自の「年間目標」又は職員一人ひとりの「年間目標」を立てるなど、具体的に到達目標を掲げられ、日々の介護の実践に活かす取り組みに期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への加入直前までの過程で、老人会との繋がりができ、合同で敬老会や花見などの行事に取り組まれる段階まで話し合いができています。保育園からの慰問や中学生の職場体験学習にも協力されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年12月に管理者の交代があったが、前任者との引継ぎはしっかり行われており、今回の自己評価は、職員に項目番号別に担当を決めて書き込まれた内容を管理者がまとめられた。職員全員が自己評価や外部評価の意義を理解されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね3ヶ月に1回運営推進会議を開催されている。入居者の近況報告と、救命救急の講習会を開催されたことなど報告されている。		

グループホーム カナリアの家 ファミリア

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者は運営推進会議に参加される程度だが、書類提出時に行き来されて顔なじみになられている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族面会時には暮らしぶりや健康状態など報告されている。季節の変わり目などに写真と共に便りを家族宛に送付されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や運営推進会議に参加された時に、意見を聞かれているが、運営に関する意見はなかなか伝えられていない。家族会はないが、遠方への花見や動植物園に行く時は家族参加を促す事前連絡で参加できる家族が増え、本人と家族の触れ合いを通して表出した家族の意見や不安を運営への反映につなげようとしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は少なく法人内の異動も殆どないが、今回管理者が交代をされている。前任者との引継ぎの期間を設け、入居者にはダメージをなるべく少なくするように取り組まれている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修の機会になるべく参加できるような支援(勤務シフトの調整や費用の負担など)に取り組まれている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に管理者が参加されて、交流を持たれている。職員間の交流にも今後取り組まれる方針を示されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族がホームの見学を通して職員や入居者と顔なじみの関係を築きながら、家族と面談を繰り返し、入居後は、本人が今できていることはしてもらう、などを本人や家族が納得されるように説明し理解された上で入居されるような努力をされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と職員は共に暮らす中で、介護する側される側にとらわれない取り組みとして、家族を取り込んで支援するあり方を模索されている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族との関わりの中からいかに「本人の思いや意向の把握ができるか。」を大切にしている。また、言葉で表現できない思いの把握を日々の行動や表情から汲み取る手段を試行錯誤で取り組まれている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすためのケアのあり方や日々の暮らしにおける気付きや意見を月1回の職員会議で出し合い、家族との関わりを反映させるような介護計画になるよう努められている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	記録様式の見直しや、現状に即した介護計画の見直しがスムーズに行くように2ヶ月前に交替された管理者の意向がある。	○	個人記録や業務日誌、日々の介護記録の改正などを通して、入居者に寄り添う介護の時間的ゆとりを持つための計画を充実させ更なる展開に期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内のグループホームの相互訪問や、行事計画で季節に合わせた遠方までの日帰り遠足に家族も同伴して外出支援をされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームの母体が病院で、入居者は殆どがかかりつけ病院である。毎朝院長が顔を出して、入居者の体調の報告を受けられている。他科受診が必要なときは、柔軟に対応されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化された場合の説明をされている。看取りをされた経験もあり、段階的に家族と職員、医師や看護師と話し合いをされている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の慣れなどから、気が付かずに言葉に出ないよう職員同士で注意している。プライドを損ねる言葉や行動を見かけるときは必ず注意を怠らないようにされている。個人記録の保管は原則、鍵が掛かる書棚に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意向に沿う支援に努められている。体調に注意しながら、食事の手伝いは無理強いしない。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方には調理場に入って手伝ってもらったり、座ったままでもできること(もやしの根を取る、シメジを裂くなど)を食事を楽しむ支援としてしてもらっている。同じ食事を職員も同じテーブルでされている。		
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日を決めた入浴支援をされているが、希望があれば曜日に関係なく応じる柔軟な取り組みをされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の下ごしらえや後片付けなど、入居者の能力に応じた手伝いを役割と受け止められる方には手伝ってもらっている。食材の買い物は外部に発注し、その時間を入居者の希望する買い物への支援にあて、本人の気晴らしを支援する取り組みに活かされている。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居前の暮らしの中に、気が向くと一人で外出される方がおられ、現在も外出されることが多い。危険防止で最低限の外出を止めるより職員が離れて着いて行くか近所との共同関係として見守りをお願いするなど、取り組まれる姿勢が窺える。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間帯の施錠以外は開放されている。居室の施錠などされていない。外出傾向がある入居者などの情報を職員間で把握されており、所在確認など見守りをされている。外来者や内側からの玄関出入りにセンサー反応でチャイムが鳴るような対策もされている。		
27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、昼間と夜間を想定した消火、避難誘導訓練を、入居者や地域住民も参加してもらい行った。	○	スプリンクラー設置が完了しており、地域住民の協力が少しづつ得られている。今後は、自然災害や緊急時持ち出し品リストの作成、突発的災害を想定して最低限の備蓄を検討されることを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の食事摂取能力に合わせた形態の水分摂取(とろみやお茶以外の好みを取り入れた飲み物)のコントロールをされている。栄養バランスを考えた献立作りをされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間、廊下の壁など季節を感じる飾りをされている。食事テーブルには水仙を職員宅から持ち寄るなど温かさが感じられる空間作りをされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の生活歴や好み分かる居室にする支援をされている。例えばやわらかいピンクの壁飾りや置物などきれいな居室だったり、最小限の家具類を置いてあるなど個性ある居室となっている。		